

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月8日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892200015		
法人名	有限会社 茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム ころ鹿嶋館	ユニット名	ひまわり
所在地	〒311-2223 茨城県鹿嶋市林1020-3		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年3月5日	評価確定日	平成25年6月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者一人ひとりとゆった関わりながら、利用者ができることや得意としていることなどを把握し、生活の中で役割をもたせ生き生きと生活ができるよう支援しています。 広々としたデッキで思い思いに外気浴を楽しんでもらえるよう支援しています。 庭には家庭菜園を作り、野菜や草花を育て、収穫した野菜などはおかずとして食卓に出したりしています。またパンを焼いたり、おやつを一緒に作ったりもしています。 利用者同士がさりげなく助け合い笑顔のあるアットホームな環境の中で、地域との関わりを深めながら明るく生活しています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は閑静な住宅街の外れに位置し、利用者がお茶を飲みながら外気浴ができるよう広々としたデッキを設置している。 利用者は職員と一緒に庭で草花を育てて居間に飾ったり、自家菜園で野菜を栽培し、収穫して食材に取り入れるなど、季節を感じながら暮らしを楽しんでいる。 管理者や職員は利用者ができることや得意とすることを把握し、生活の中で役割を担いながら生き甲斐のある暮らしができるよう支援している。 居室には利用者が家族等と一緒に撮った写真やテレビ、ラジオ、洋服収納ケースなどを持ち込んでもらい、安心して今までと同じような生活が継続できるよう配慮している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念に基づいたケアを目指して全職員が取り組んでいる。	理念は管理者と職員で話し合っって作成し、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容となっている。 理念を玄関や事務室に掲示するとともに、職員は月1回開催するミーティング時に確認し、理念に基づいたケアを目指して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の『うえるサロン』への参加や、鹿嶋市の『かしま祭り』など地域イベントへの参加をしている。また定期的にボランティア（大正琴、ハーモニカ）の方々との交流している。	利用者と職員は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。 定期的には大正琴やハーモニカ演奏などのボランティアを受け入れている。 利用者は職員と一緒に、年3回地域で行われるレクリエーションやグラウンドゴルフなどの交流会に参加したり、地域の祭りに出かけて山車の応援などをしている。 年1回実施する事業所見学会に区長や民生委員、婦人会の人々が来訪しており、利用者が地域の人々と交流する機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域とのイベントへ参加することで、入居者の方たちと触れ合ってもらい理解を深める。 また今後職場体験やヘルパーの実習生の受け入れを予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を取り入れ、業務の改善に取り組んでいる。（平成25年1月～）	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、区長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では運営状況や入居状況、待機状況について報告をしたり、感染症予防対策などの議題について話し合っている。 会議で出た意見等は管理者や職員で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密には連絡を取っていないが、運営推進会議で出された意見などを取り入れサービスの向上に活かされている。	管理者は日常的に市担当者へ出向き、運営上の問題や利用料支払いが困難なケースなどについて相談している。 管理者は市担当者から「個人情報に関する書類の取り扱い方」について助言を得て改善を図るなど、市担当者の協力を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催し、理解に努めている。	管理者は年1回身体拘束をしないケアに関する外部研修を受講しているが、身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するまでには至っていない。 年1回身体拘束排除に向けた勉強会を実施し、職員は身体拘束をしないケアを実践している。 玄関は施錠せず、利用者がいつでも自由に入出りができるように支援している。 やむを得ず身体拘束をする場合に備え、利用者や家族等への説明書や同意書、経過観察記録などの書類を整備するまでには至っていない。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、やむを得ず身体拘束をする場合に備え、利用者や家族等への説明書や同意書、経過観察記録などの書類を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者の虐待』についての勉強会を開催し、注意する点を学んで防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等の中で『権利擁護』について勉強し、理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事細かに説明することに心掛け、家族に理解と納得を得られるようにしている。特に料金に関しては細かく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは普段の関わりの中で、また家族とは面会に来られた時に、意見や要望を聞き出せるようにし、随時取り入れられるようにしている。面会が難しい家族に対しては、定期的に状態報告を行う際に、要望・意見を汲み上げている。他に年2回の家族会を予定。	利用者からは日常の係わりの中から、家族等からは面会時に意見や要望を聴いている。面会が困難な家族等の場合は、利用者の状況を報告する手紙に意見を書く用紙を同封して年1回送付し、意見や要望を汲みあげるよう努めている。義歯を使用しない利用者の家族等からの要望により、食事を刻み食に変更したり、利用者から「外出の機会を増やして欲しい」との要望を受けて外食を月1回実施するなど、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見や提案を出してもらい話し合いをしている。また個人面談を行い、職員の意見等を聞き出しながら仕事がしやすい環境作りに取り組んでいる。	管理者は月1回の事業所会議や毎朝のミーティング時に職員の意見や提案を聞き、話し合っている。職員の提案により夕食の時間を30分延長したり、おむつを使用していた利用者をトイレ誘導するなど、運営に反映させている。管理者は随時職員と個人面談を行い、職員の意見等を聞いて仕事がし易い職場の環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に有給休暇取得ができるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。職員の経験年数も加味しながら研修会に参加できるようにしている。個々の目標作りや評価によるやりがい作りを実施予定。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。また経験に応じて必要と思われる研修・講習会等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ケアプラン等を基に積極的に関わり利用者を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の中で、家族の介護に対する不安や思いを聞き出し、常に家族側の立場として色々な相談をしていただけるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に不安に思っている事を汲み取り、その改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のなつかしい歌を教えてもらったり、時には利用者の方が職員に気をつけていただいたりしながら生活を共にしている。 畑作りや家事においても役割を持ってもらい、共に支えあう暮らしをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や諸行事に参加して頂き、その時に家族と一緒に食事や演芸を楽しんだりして、家族との絆を大切にしている。また家族交流会においては、家族と今後について話し合いの場をもうけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話が出来るような環境を提供している。本人が慣れ親しんだ店に買い物や外食に出掛けたりしている。	利用者の知人や友人が面会に来た際には、ゆっくり会話が出来るようお茶やお菓子で接待している。 職員は利用者が慣れ親しんだ店で買い物や外食ができるよう一緒に出かけ、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援をしている。 昔から祭りが好きだった利用者には、鹿島神宮まで山車を見に行けるよう支援している。 墓参りに行ったり、行き付けの美容室を継続して利用できるよう、家族等に連絡して協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション・家事を通し、利用者同士が声を掛け合ったり、一緒に行くことで楽しめたり、孤立しないよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（長期入院・死亡等）しても、御見舞いにいたり、暑中見舞い、年賀状のやりとりをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との会話のなかから、希望や意向などを聞き出せるようにし、内容によって随時職員間で話し合い、本人が望むような『自分らしい生活』が送れるように検討している。必要に応じて、家族・本人を交えた話し合いも持つようにし、希望・意向が言い易い場をもうけるようにしている。	職員は利用者との日常の会話の中から希望や意向などを聞くよう努めている。 利用者が希望や意向などを伝えられない場合は、表情やしぐさなどから思いを汲み取るほか、必要に応じて利用者や家族等と話し合う機会を設けるとともに、職員で話し合い、利用者の望む生活ができるよう支援している。 利用者の希望を尊重し、夕食時の飲酒や戸外で喫煙ができるよう職員が付き添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にこれまでの生活歴などを聞き出し、なるべく今までの生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めると共に、今までの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事をしていただいている。また各自の心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中での気付き、本人・家族の意見や要望を基にアセスメント・カンファレンスを行い介護計画を作成している。一定期間後にモニタリングを行い介護計画を見直している。	職員は利用者や家族等の意見や要望を基に、アセスメントやカンファレンスを行って介護計画を作成している。 月1回モニタリングを行うとともに、短期計画は3ヶ月毎、長期計画は6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化によって、日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人の言葉を記録に残し、職員全体が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。その情報の中からその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かしま祭りや鹿島神宮参拝などに行き、楽しんでいる。花火大会やイルミネーション見学など、季節行事や夜間イベントの楽しめる機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関に受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的な健診も受けている。	利用者や家族等の希望にそったかかりつけ医への受診を支援している。 協力医療機関以外のかかりつけ医への受診は、家族等が付き添うこととしているが、家族等の付き添いが困難な場合は職員が対応している。 職員が受診に付き添った場合は、後で家族等にかかりつけ医に立ち寄ってもらい、医師から直接受診結果を聞いてもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との関わりの中で気付いた点また本人の訴えは必ず看護師に伝え指示を仰ぎ対応するようにしている。状況によっては病院受診している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた連絡をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら、状況に応じ職員間で対応方針について検討している。また、主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催し、チームケアを取り組むよう努めている。	重度化や終末期に向けた対応方針について利用者や家族等と話し合い、事業所でできることとできないことを説明している。協力医療機関と24時間の連携が困難であるため、事業所では看取りはできない状況であるが、そのことを明文化したり、書面で同意を得るまでには至っていない。	事業所では看取りはできないことを明文化するとともに、契約時に利用者や家族等に十分説明し、書面で同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルも基に看護師の指導を受けている。また、体調が急変した時は看護師に連絡し、状況により駆けつけられる体制も出来ている。日常の中で応急手当や急変時の初期対応について看護師から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している（3ヶ月に1回）。実施後の反省点等を記録し、今後の訓練に活かすようにしている。	月2回防災訓練を実施するとともに、年1回消防署立会いのもと避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施したり、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。避難訓練後は反省点を話し合っただけで記録に残していない。避難訓練の結果、車いすのタイヤが土にのめり込むことが明らかになったため、スムーズに避難ができるよう避難経路の土面に敷くビニールシートを購入するなど、改善に努めている。職員の緊急連絡網を事務室に掲示している。災害に備えて米や冷凍食品、飲料水などを7日分備蓄しているが、リストを作成して賞味期限を定期的に管理するまでには至っていない。	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう運営推進会議などで話し合うことを期待する。備蓄品のリストを作成し、賞味期限などを定期的に管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対する対応が、職員間で共有できるよう、ミーティングで話し合い、プライバシーに配慮した対応をしている。入居者の希望により、自室ドア窓にプライベートカーテンを取り付け配慮している。	利用者一人ひとりに合った対応の仕方について職員で共有を図るため、職員は月1回のミーティング時に話し合うとともに、利用者の人格を尊重しながらプライバシーを損ねないケアに努めている。 利用者がトイレに行く際には、プライバシーを損ねない声かけや対応をするよう配慮している。 個人情報に関する書類は鍵のかかる書庫に保管し、情報の漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や、行動または発言に注意しながら、入居者への声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、利用者のペースに合わせ、囲碁や塗り絵、編み物やカラオケ、買い物など、工夫した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て楽しんだり、時には職員と一緒に買い物に出かけ本人の好きな服を買ってきたりしている。また女性の入居者には外出時やボランティア来訪時、希望に合わせ化粧を行ったり、声掛けを行ったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事（昼食・夕食）の準備をしたり、食後の洗い物や食器拭きをしてくださる。また畑で出来た農作物などを一緒に採りに行き料理して食べたりしている。また食の細かい方には、決まったメニューではなく、本人の食べやすい物を提供したり、嗜好により考慮した個別のメニューを作っている。	職員は利用者と同じ食事を一緒に摂っている。 自家菜園で栽培した野菜を利用者と職員と一緒に収穫し、食材に取り入れて季節感のある食事を味わっている。 利用者の誕生日には手作りのおやつを作って祝ったり、夏祭りや敬老会、クリスマスには行事食を提供するなど、食事が楽しめるよう工夫している。 利用者は職員と一緒に食事の準備をしたり、洗い物や食器拭きなど、能力に合わせて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また体調によっては、お粥・刻み食などに変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアができる方は見守りや声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、本人がトイレ行かれた時にはプライバシーを損ねないように、声掛けや対応には十分注意している。	職員は排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるようタイミングを見計らってトイレ誘導をしている。 おむつを使用していた利用者をトイレ誘導したところ、トイレで排泄ができるようになったケースがあるなど、職員による排泄の自立に向けた適切な支援が改善につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材を利用したりしている。また軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めているが、入浴日以外でも本人の体調や希望に沿った入浴が出来るよう支援している。利用者の希望を聞き、一番湯や終い湯、変わり湯、夜間浴、足浴などの工夫をしている。	週2回入浴日が決まっているが、入浴日以外でも利用者の体調や希望にそって入浴ができるよう支援している。 入浴の時間帯は利用者の希望にそって自由に入ることができ、柚子湯や菖蒲湯を取り入れたり、入浴剤を使用して入浴が楽しめるよう工夫をしている。 浴室の隣りにトイレを設置しており、入浴時の急な排泄にも対応ができるため、利用者の安心につながっている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また利用者の体調に合わせた休息を設けている。本人が「休みたい」と訴えがあった場合には和室や居室で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬している。看護師を通し医療機関に情報の提供をしている。また職員が入居者の服薬について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買い物、畑仕事など役割を持ってもらい、自信を持って生活できるように支援している。また、季節に沿った外出行事を楽しんだり、昔手作りした食品作り（切り干し大根、甘酒など）を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出掛けたり、天気の良い日はドライブに出掛けたり、近所を散歩し挨拶や会話を楽しんだりしている。	利用者は職員と一緒に週1回食材の買い出しに出かけている。 利用者が洋服や日用品などを購入できるよう、月1回商店街への外出を支援している。 天気の良い日はドライブに出かけたり、池の白鳥や商店街のイルミネーションを見に出かけられるよう支援しているほか、季節毎の花見や菊祭りなどへの外出を支援している。 月1回外食を支援しており、利用者の楽しみの一つになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が困難な方が多い為、必要なものや本人が希望するものは施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、支払いできるように支援している。ただし紛失の危険性を説明した上で、希望する利用者（家族同意の基）は所持している。近くのお店で使えるよう付添や外出時の買い物時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族に電話したい時に電話できるようにしている。 年賀状など、自ら書くことが困難な方に対しては代筆を行い、家族や友人との交流が持てるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等に季節の花を飾っている。また、季節感のある小物なども置いている。和室・ソファでゆっくりしながら談話しながら過ごしている。玄関・リビングには入居者のご家族様の書いた絵画を飾っており落ち着いた雰囲気演出している。	居間と廊下には天窓があり、明るい空間となっている。 利用者が自由に寛げるよう居間の一角に畳の空間を設けている。 居間の外に広々としたデッキを設置し、利用者が自由にお茶を飲んだり外気浴を楽しめるよう支援している。 玄関や居間に季節の花や季節感のある小物を置いたり、壁には利用者の家族等が書いた絵画を飾り、落ち着いた雰囲気演出している。 利用者職員と一緒に折り紙の花や貼り絵を制作しており、完成した作品は皆が見て楽しめるよう、廊下や畳の空間に飾っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンデッキが広いので、車椅子でも自由にデッキに出入りする事も出来、好きな時に外の空気を吸ったり気分転換をはかれる。和室、テーブル、ソファ、一人掛けソファを利用し、気の合った方同士、または一人になれるような空間作りを行っている。和室には趣のあるテーブルを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人の使っていたソファ、ベッド・布団等を持ち込んで使用していただいている。また、使い慣れ親しんだ鏡台やタンス等も置いたりしている。	居室にエアコンやベッド、カーテン、チェストを備え付けているほか、ベッドがある壁には呼び出しコールを設置している。 必要に応じて天井に空気清浄機を設置し、室内の臭いに配慮するとともに、清潔保持に努めている。 利用者は今までの生活が継続できるよう家族等の協力を得ながら居室にテレビやラジオ、クローゼット、使い慣れた寝具、家族等と一緒に撮った写真などを持ち込み、安心して生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分かるよう入口に大きな名前札を設置している。リビング出入口に安全の為、ガラスがあることがわかるよう背丈に合わせた飾りテープを使用している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホームこころ鹿嶋館

作成日 平成25年6月20日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、やむを得ず身体拘束をする場合に備え、利用者や家族等への説明書や同意書、経過観察記録などの書類を整備することを期待する。	身体拘束排除に向けたマニュアルを含む書類を整備する。	①身体拘束排除に向けたマニュアルを作成する。 ②利用者や家族等に十分説明し、書面にて同意を得る。	7月末日
2	33	事業所では看取りはできないことを明文化するとともに、契約時に利用者や家族等に十分説明し、書面で同意を得ることを期待する。	看取りに関しての内容を契約書に追加する。	看取りが出来ないことを明文化した契約書を用意し、利用者や家族等に十分説明し、同意を得る。既に契約している方については別紙にて同意を得る。	8月末日
3	35	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう運営推進会議などで話し合うことを期待する。備蓄品のリストを作成し、賞味期限などを定期的に管理することを期待する。	夜間を想定した避難訓練を実施する。 備蓄品の安全管理。	①運営推進会議等にて近隣住民の協力を仰ぐ。 ②備蓄品リストの作成。賞味期限を考慮し定期的に管理する。(基本半年に1度)	9月末日
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。